

過去問に挑戦!

問題 尺度を用いた測定の信頼性に関する次の記述のうち、正しいもの一つ選びなさい。

- 第22回 (2010年) (78)
- 1 信頼性が高ければ、測定したい事柄を適切に測定できていると見てよい。
 - 2 信頼性を検討する手法の一つである折半法とは、調査対象者を半分に分けて、それぞれに同一の測定を行う方法のことである。
 - 3 再検査法で信頼性を検討する場合、1回目の検査と2回目の検査の間隔が広ければ広いほど、時間的安定性が高くて望ましい。
 - 4 クロンバックの α 係数は、複数の測定項目間に内的整合性があるかどうかを調べるためのものである。
 - 5 同一の対象者集団に対して正反対の結果が出ると想定される2つの測定を行い、負の相関の強さを確認する方法のことを、平行検査法という。

答え 4

測定の信頼性とは、同一人物に同一条件で同一質問を行った場合に同一の結果が得られる安定性や、同一人物に同じような内容の質問を行った場合に同一方向の解答が得られる一貫性の程度をいふ。測定したい事柄を適切に測定できているかどうかを判断するのは測定の妥当性である(1は誤り)。折半法とは、スケール項目を2群に分けて実施するもので、調査対象者を分けるものではない(2は誤り)。1回目と2回目の検査はある程度の間隔をあけて行うのが広ければ広いほうがよいとはえない(3は誤り)。平行検査法は、同じ概念について2つのスケールを作成して同時に同一人物の相関係数を信頼性係数の推定値とする方法である(5は誤り)。

次の記述の空欄A, B, Cに該当する語句の組み合わせとして、正しいもの一つ選びなさい。

標本調査とは、調査対象となる集団の一部を抽出し、Aの特性を推測する方法である。集団の一部を抽出する方法には、確率理論に基づくBと、確率理論に基づかない有意抽出法がある。Bには、一定の間隔で標本を抽出するCという方法がある。

- | | | | |
|---|-----|--------|---------|
| | A | B | C |
| 1 | 標本 | 無作為抽出法 | スノーボール法 |
| 2 | 標本 | 無作為抽出法 | 系統抽出法 |
| 3 | 標本 | 割当抽出法 | スノーボール法 |
| 4 | 母集団 | 割当抽出法 | スノーボール法 |
| 5 | 母集団 | 無作為抽出法 | 系統抽出法 |

統計調査の中で国勢調査等の全数調査に対して、標本調査は、市場調査や世論調査等の社会調査に用いられる調査方法である。

- A 母集団 調査対象の全体を母集団という。
 B 無作為抽出法 無作為抽出法とは、乱数表やくじ引きによりランダムに抽出する方法である。
 C 系統抽出法 系統抽出法とは「等間隔抽出法」といわれることもあり、一定間隔で対象を抽出する方法である。

** 正解 5

ピアソンの積率相関係数に関する次の記述のうち、正しいもの一つ選びなさい。

- 1 相関係数がゼロになった場合は、2つの変数の間にはいかなる関係も存在しない。
- 2 それぞれの変数の測定単位 (m と cm, 円とドルなど) が変われば、相関係数の絶対値の大きさも変化する。
- 3 変数Xと変数Yに正の相関が、変数Yと変数Zにも正の相関がある場合でも、変数Xと変数Zに相関が存在しないことがある。
- 4 2つの変数の間に相関があれば、どちらが原因となる変数でどちらが結果となる変数であるのかを特定できる。
- 5 相関係数が大きな値を示せば、2つの変数の間に必ず直接の関連がある。

ピアソンの積率相関係数は、量的尺度間の関係を数字で示す尺度である。-1から+1までの範囲をとる。

- 1 × 相関係数がゼロであっても、2つの変数に関係のある場合も存在する。
- 2 × 相関係数の特徴は、単位をそろえなくても計算できる点である。
- 3 ○ 変数Xと変数Zに相関が存在しないことがある。
- 4 × 相関係数からは2変数間の関係の状況しかわからない。
- 5 × 相関係数が大きな値を示しても、2つの変数の間に直接の関連がない場合もある。

** 正解 3